

障碍を超えての 慰霊参加に感銘

先ごろ、山形県出身・葛西さんのマーシャル方面遺族会 4/21 日付、インフォメーション「第 55 回慰霊祭に参加して」を拝受いたしました。互いの気持ちを理解し感動的な文面の出会いに心から喜びを感じた。

葛西さんは、たしか沖縄にある摩文仁の丘にある慰霊碑を参拝、英霊に追悼を捧げたと思う。だれでも初めは日本国内から海外と慰霊と遺骨収集に夢をたくし行動するものだが、日本政府の冷たい態様に嘆きと憤りを体感したと思う。

3 年前に脳梗塞で倒れながらも、葛西さん自身がどうしても靖国参拝を愛と勇気をもって実践したひたむきな心、葛西さんらしい生き方に誠実さと透明感が如実に伝わって来た。

戦後72年、どこの自治体も慰霊祭事業は全国の巷で激減している中、当会は若い方々の参加で真の平和の尊さと、次世代に引き継がれとしている姿に安堵なされてましたと記されてましたがほんとうに同感です。

結びに、優しい心で会員の方々に車いすのでささやかな、自らの体験をお知らせする姿に、共感と感銘をうけ障碍者も健常者同じように普通に生き、楽しみ生活することはデンマーク発祥の地ノーマライゼーションそのものと感銘を受けた。

宮城県 佐藤 勉